

神戸学院大学 第2次中期行動計画 中期計画（第3層） 2021年度達成度評価表 分野：研究

		評価	理由
中期目標	多様で優れた学術研究を奨励し、その成果を広く社会に還元するとともに、地域と連携した特色ある研究の拠点形成を推進します。		
中期計画	1 研究環境の整備充実	B	研究費の適正使用を遵守する検収体制について物品の第三者検収を強化するとともに周知・徹底している。また、情報ネットワーク環境の充実においては、インターネット回線の高速化を実現したことは評価できる。インターネット回線の高速化にとどまらず、発展的にICT技術の向上に結び付けた今後の取り組みを期待する。さらに、学内共同研究推進の環境を整備するために、情報交換の場を設けることも望まれる。
	2 多様な外部資金の獲得	B	科学研究費等競争的資金や寄付や企業との共同研究による外部資金の獲得については、研究支援センターが中心となって支援を行っており、件数・金額ともに年々増加していることは評価できる。栄養学部では、若手教員を中心とした推進委員会を設置し、競争的資金の獲得結果を勘案した学部予算の配分方法を行っていることや、研究資金獲得の基盤となる研究力の向上を目指して、卒業研究及び大学院進学の魅力を伝える説明会等を開催する等、積極的な取り組みを行っていることは長所である。また人文学部において学部内の研究推進費を科学研究費応募者に優先的に配当する等、継続的に研究推進費による研究の活性化を図り、科学研究費申請につながる施策を行っていることは長所である。大型プロジェクトへの応募を視野に入れて、学部単位にとどまらず学際的な研究組織を構築することが望まれる。
	3 学内・学外との研究連携促進	B	総合リハビリテーション学研究科においては、他大学との研究提携が進められており、本学博士後期課程への学生受け入れ（進学）、双方大学院科目の非常勤講師講義担当、等が進められていることや、他の医療機関と共同・連携研究を進める動きがあることは長所である。国内外の大学、研究機関との連携協定の締結は今後の大学院教育の柱の一つとなることが期待される。

評価 S：目標よりはるかに上回る、A：目標をやや上回る、B：おおむね目標どおり、C：目標をやや下回る、D：目標をかなり下回る